

元祖爆笑王さんが表敬訪問

元祖爆笑王さんが8月7日に松田町長を表敬訪問しました。
元祖爆笑王さんは、9月7日に金沢孔城館(旧横手市金沢小学校)で開催される「後三年秋の陣in金澤」に参加します。
メインイベントは、元祖爆笑王さんが企画し、自らMCを担当する「紅白歌合戦」。また、菖蒲太鼓保存会や美郷ジャズオーケストラなどのさまざまなステージがあるほか、出店やキッチンカーも並びます。



■(右)元祖爆笑王さん



ヨネックス特別協力 ソフトテニス教室

ヨネックス株式会社のソフトテニスチームに所属し、全日本2022年ナショナルチームのメンバーである小松芹奈選手が講師を務めた「ソフトテニス教室」が、8月3日に美郷中学校テニスコートで開催されました。

当日は美郷中学校ソフトテニス部員16名が参加し、フォアハンド・バックハンドストロークやボレーを主に練習。小松選手はスイングの姿勢やラケットの面の向き、ボールを打つポイントなど、一人ひとりへの丁寧なアドバイスに加え、所々でユーモアを交えた指導も行いました。強い日差しが降り注ぐ中での教室となりましたが、生徒たちは終始良い表情で練習に臨んでいました。



■(右)小松芹奈選手



会場変われど賑わい変わらず 夜市

美郷町の夏の風物詩「夜市」が8月10日、11日の2日間にわたり開催されました。会場を美郷町中央公園・安楽寺児童公園付近に変更した今回。10日は前夜祭として、旧六郷わくわく園跡地の南側の通りに出店が並び、11日には通りの出店に加え、大同衣料株式会社の駐車場にステージが設置されメイン会場となりました。11日の夜市当日は、美郷中学校吹奏楽部によるマーチングパレードで幕を開け、六郷小学校太鼓部の演舞や同小音楽部の演奏、旧3町村と美郷町の盆踊りなど数多くのイベントが行われ、子どもと大人が一緒になって夜市を盛り上げました。また、出店やキッチンカー、ステージが並び会場周辺は、多くの来場者で賑わいました。



シン・清風～美郷にひとりひとりの風を～ 二十歳の集い

20歳を迎えた方々を対象とした「二十歳の集い」が、8月15日に美郷町公民館で開催されました。

当日は華やかなドレスやスーツに身を包んだ出席者140名が、旧友との再会を喜び合いました。式典では、出席者を代表して森川袖月さんが「今年度の二十歳の集いのテーマ『シン・清風』にもあるように、多くの経験を重ねた今、今度は私たちがこの町に一人ひとりの風を吹かせ、より良い美郷町を築いていきましょう」とあいさつしました。その後、ブラボー中谷さんによるマジックを交えた講演や実行委員会の皆さんが制作した記念映像の放映が行われ、会場は大いに盛り上がりました。



■(右)ブラボー中谷さん



■森川袖月さん

MISATOPICS

町の話題



新作えほん原画展 永田萌の描く「みさと」



■ギャラリートークでの永田萌さん

「新作えほん原画展 永田萌の描く『みさと』」が7月20日から8月25日にかけて美郷町学友館で開催されました。初日には、テープカットで開会を祝した後に永田萌さんによるギャラリートークが行われ、制作時のエピソードや込めた思いなどを話しました。今回の展覧会では、ことし3月に出版した町オリジナル絵本「ミサトとセッカのだいぼうけん」の原画をはじめ、カラーインク作品やアクリル絵画が約90点展示されました。

特別展に先立ち、6月29日に千畑小学校周辺でワークショップ「絵本のモチーフとなったふるさとを描こう!」が行われました。18名の親子等が参加し、永田さんからアドバイスをもらいながら、アジサイや松・杉並木をスケッチしました。ほかにも講演会やサイン会などが行われ、永田さんと直接関わることができる貴重な機会となりました。



COLUMN WINDS

コラム

風

四季おりおり

美郷町長 松田知己

昨年引き続き、今年も例年とは違う夏でした。もはや普通でないことが普通という、非日常が日常化している状況です。今後を考えると未恐ろしさを感じているのは、私だけではないと思います。一方、こうした中でも季節は着実に移ろいます。稲穂は徐々に黄金色に変化し、出来秋に着実に向かっています。もうひと月もせずに、山の色も着実に変化していくだろうと思います。異常気象であっても、日本における四季の移ろいは変わりません。こうした四季の移ろい、例えば



▲「夜市」のオープニングセレモニーであいさつをする松田町長

稲穂の色の変化もそうですが、それぞれの感性で何かを感じ何かを思うことは、私はとても大切なことではないかと思えます。と言いますのも、人と人、自然と人、物や出来事と人との関係性の中で生きている私たちにとつては、変化を感じる力、それにより喚起される感情や思慮は、より人間らしい生活に必要であると信じているからです。私自身もできる限り変化に対する適切な敏感さは、常に意識しているところです。しかしそうした感性は、一朝一夕に錬磨されるわけではありません。日常の小さな積み重ねの中で磨かれていくものと私は思います。こうした認識を踏まえてですが、町では感性を磨く一つの機会として、日常的に触れることができる芸術作品を

制作するプロジェクトをスタートさせました。「美郷の四季プロジェクト」です。町内3地区それぞれで四季折々のポイントを定め、春夏秋冬それぞれの風景をモチーフにした作品を制作してもらいます。制作画家は美郷大使の永田萌氏、町出身で洋画家の澁谷重弘氏、日本画家の山田美知男氏です。毎年一作ずつ制作し、作品は町学友館に常設展示する予定です。従って、4年掛かりのプロジェクトとなります。

また、その風景箇所は写真撮影もします。実風景が芸術作品としてどう表現されるのかも楽しむことができる仕掛けです。町民みなさんの感性を日常的に刺激しながら、美郷町自体の個性をさらに確立していくことにも繋がると私は信じております。

どちらかと言えば夏はビールが多かった私。そろそろ日本酒の「ひやおろし」のシーズン。あ、季節の移ろい、万歳!